

令和4年度 自己評価結果公表シート

作成；学校法人聖心幼稚園

作成日；令和5年4月28日

1. 本園の教育目標

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。（ヨハネ15：5）

1. 神の存在を知り、さまざまな神の恵みと祝福を感じながら、イエスと共に生きようとする思いや生活態度を育てる。
2. 明るくのびのびと行動し、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣や態度を育てる。
3. 他の人々と親しみ、愛情や信頼感を持って、お互いに支え合って生活していくための自立心と人とかかわる力を養う。
4. 身近な環境にかかわり、発見したり、考えたりしながら、物を大切に作る心や命の大切さや思いやりの気持ちを養う。
5. 自分の考えや思いを言葉で表現したり、相手の話を聞く意欲や態度を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標

教育研究テーマ「心の根っこを育てよう」について、全職員で取り組む。

～自己肯定感を高く持ち、周りの人達を大切にしようとする心を育てる～

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施、教育研究テーマに関して、教職員の共通理解を図る。	運営状況調査時の指導により、園の全体的な計画の見直しや研究テーマを踏まえた重点目標の話し合いを全職員で行った。そのことにより、共通理解が深まった。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	特別支援教育園内委員会を定期的に関き、情報交換や協議をし、幼児理解を深めるとともに、個別のかかわり方について共通理解を深めた。また、専門機関と連携し、個別の支援方法を指導していただき、集団生活の中で活かしていった。
園内研修の充実を図り、重点目標に向かって全職員で取り組む体制を構築する。	○全職員で研修を行い、共通理解を図ると共に、研究テーマへの理解を深め合った。 ・入園式後 13:30～15:00 ・講師 市教委 特別支援教育コーディネーター 渡邊憲二先生 ・『愛着障がい、愛着問題』の理解と支援（対応）について ○日々の終礼時の報告をはじめ、学期ごとの振り返りなどにおいて、観点や視点を明確にし、日課が研修となるように心がけた。 ○勤務形態が異なる職員もいるため、全職員での研修の実施が難しいので、今後も検討や工夫をしていきたい。
教育研究部会においてテーマや方向性を話し合い、定期的に成果や課題点、見直し点を出し合い、次につなげる。	・毎月の職員会にて話し合っって情報を交換した。 ・毎学期末に事前に話し合った成果や課題点等を持ち寄り、田の字法を活用して、まとめたり次の取組の方向性を話し合ったりした。

保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にアンケートを取り、保護者のニーズを把握し見直しをした。また、次年度の園運営に反映していきたい。 ・アプリを活用して、アンケートの回答を手軽にできるようにした。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンを計画を策定する。	少子化や就労家庭の増加、国の政策の影響により、今後の経営が難しくなることが予想される。現在中・長期的なビジョンはできていないが、早急に取り組んでいきたい。
園の財務状況を積極的に公開する。	ホームページへの公開を行っている。(5月)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◎⇒大変良い ○⇒よい △⇒不十分 ×⇒努力が必要

評価	理由
○	専門的な指導を受け、全体的な計画や重点目標、長期の指導計画を見直す為に話し合いを行ったことで、今まで以上に共通理解を深めることができた。担当する学年だけでなく、入園から卒園までの学年の目標を設定し、全体的な計画に入れることで、幼児の発達の道筋が理解でき、日々の保育においておさえるべきポイントが明確になった。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園生活の中で、心の根っこ（非認知能力）を育むために必要な経験が遊びや活動の中でできるようにする。	年度末の"田の字法"研修でできた課題をさらに整理し、"心の根っこ"を育むために必要な経験を保育の中に組み込んでいく。特に"社会性"の育成に力を入れていきたい。
重点目標を達成するために、園と家庭が連携して取り組む。	アンケート等で保護者のニーズや困り感、園に対する要望などを把握し、行事内容や活動内容に反映していく。また、「家庭と一緒に育む姿勢」を大切に、情報発信や相談事業、行事の工夫をしていきたい。さらに子育てに不安や困り感を抱えている保護者に寄り添う親支援を充実させていきたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

○いろいろな体験や経験を通して子どもたちの興味や関心が伸びるように計画されている。個別指導が必要な園児に対して気持ちのコントロールや他者との関わり方、対応が身につくように寄り添い指導が行われている。また、専門機関と連携されているので両方から支援を受けることで就学に向けてのサポートができており安心して進学することができました。

○コロナ禍での対応；状況に応じた対策が取られていた。園の行事が例年通りにできない中でも、分散開催や時間をずらして行う等、園児の安全・安心をいちばんに考えているように感じた。園児に色々な経験をさせてあげたい気持ちと安全のバランスに悩まされた3年間だったと思いますが、先生方の想いは園児や保護者に十分に伝わっていると思います。

○コドモンの導入；コドモンの導入により、朝の検温や園からの連絡が簡単になり、園や保護者共に楽になった部分が多い。先生方の労働環境の改善や保護者が園の様子をより知ることができるようになり満足度もあがったのではないかと考える。

○教育研究；田の字法による振り返りができており、学期毎の課題を明確にし、継続的な活動（改善）ができていたと感じた。毎月の職員会で定期的に話し合う機会もあるということで、テーマについて考える時間が確保されている点はすばらしいと感じた。

○その他；園の取り組みがよく理解できました。大変なことが多いと思いますが、これからも頑張ってください。応援しています。

○コロナ禍で職員の方々が子どもたちをそだてているなど拝見させていただきました。参観日も1回だけでしたが、のびのびと学んだり、遊んだりしている姿を見てほほえましいと思いました。赤十字の炊き出しもあり、子どもたちの成長が楽しみです。安全管理ですが、外部侵入者・来訪者に対する安全対策は対処してはどうでしょうか？またコロナの影響で参観日の日程が変更になった場合の連絡をきちんとしていきましょう。

○自己評価集計結果を見て；先生方の自己評価が厳しいですね。でもそれは、それほどしっかりと見つめられているということの裏返しだと思います。現に「幼児の気持ちに共感しながら一緒によく遊んでいる」とか「園内の担任団で幼児理解を深めるための事例検討会等を行っている」という事項が高いです。教育という言いながらも大切な人育てだと思います。十分達成・ほぼ達成の割合がさらに高まるといいですね。

○保護者参観後のアンケート結果を見て；貴園についての回答が、どの学年とも肯定的な意見がほぼ100%であることが素晴らしいと思います。自由記述を見ても、解決の仕方・子ども同士の伝え方・自主性の尊重など、貴園が普段から行われている実践がしっかりと根付いており、評価されていると感じました。本校のめざす子ども像「みること・きくこと・つたえることができる子」にちゅっけつする「幼小連携」だと思います。

○3月実施 聖心よ追円に関するアンケートをみて；どこも「わかりやすい連絡」等ありますね。本校も個別メール発信・HP掲載・直接児童に配布の3段構えで連絡などを行っていますが……。結局ご自分が見ていない、文書の価値を自分なりに取捨選択し、どうでもいいと判断されたら読まない……。等々、色々です。めげずに取り組んでいきましょう。